

## 武家政治の始まり

12世紀末に鎌倉に立てられた武士の政権を(鎌倉幕府)という。それは、将軍と御家人による(御恩)と(奉公)の関係をもとに成り立っていた。

源頼朝の死後、北条氏によって(執権)政治が行われた。

承久の乱ののち、幕府は京都に(六波羅探題)をおいて、朝廷の監視と西日本の御家人の統制にあたらせた。

## 人々の暮らし、文化と仏教

鎌倉時代の農民は、田畑の面積に応じて荘園領主に(年貢)を納めた。(地頭)がおかれた荘園では、農民は(地頭)と荘園領主の二重の支配を受けて苦しんだ。

農業では裏作に麦をつくる(二毛作)が広まった。

鎌倉文化は親しみやすく力強い文化で、右の資料の(金剛力士像)は、その代表的な彫刻作品である。

時代の変化を見つめた甲斐長明の「(方丈記)」や、兼好法師の「(徒然草)」などの随筆集が書かれた。

栄西や道元が、座禅によって自らさとりを開く(禅宗)を伝えた。



## 元の襲来

13世紀にモンゴル民族のチンギス・ハンがたてた(モンゴル帝国)は大帝国になり、フビライ・ハンのとき国号を(元)と改め中国を支配した。

幕府がフビライの国交の要求を退けると、2度にわたって元軍が攻めこんできた。これを(元寇)という。